



畫本西遊全傳

編



~13  
3843  
16



門へ13  
號3843  
卷16

繪本西遊記二編卷之八

前章之下回

河小汝僧三藏小向ひて曰師父今既小陳氏兄弟が身なまけ意小しり  
 へ憊いとり成なりほり上うへ六むい氷こ成なり踏ふみの危あやさを休やす幾いく日ひ乃すなはは天そら暗くら凍こ化かと待  
 船ふねを要いて河がは成なりりりりいと練いむ三藏さんざう不な昔むかしりて曰い々々ハ汝僧にんじゆ怎いか麼  
 くる思おもはるるおも成なり云いや陽春やうしゆんの空そらなふ一日いちにちく暖和あま和な少すこ凍こ乃すなはは解と成なりゆ  
 待まち登あり河今八月がふにん小向こむかひりて日ひ成なり追おひ冷気れいき成なりり如何いかんといらう氷この解と  
 る成なり行ゆつれど是こゝを待まちむ空そらへ羊やう載のり乃すなはは光陰くわういんを消けむ登ありハ戒かいの  
 綸りんを穿あて馬うまより跳はり下くだり汝にんホ口くち成なり用もちくる成なり休やすれ彼是かれこれと長なが綸りんせ  
 んより老猪らうしゆ氷こ乃すなはは厚薄あつたまをりんと呼よべり那あ歎あ子こ河がは辺べ小行こゆ鉞せんと上  
 へ力ちから一ひとの禁つた試こ小只こ銅鉄どうてつの堅かたか如ごとく手て响ひびり疼いた多おほしハ大おほい小こりて



西遊記二編卷之八

曰師又放心こころをかりひひと鋼住くわいじ々々三藏さんざう十合じゅうがふ歡喜くわんぎ相俾あひまり陳氏ちんしの家うち小  
 回くわいじん懇こん小別せつを告つげ陳清ちんせい凡弟ぼんていも今いま止とどむる小こ約やくなく乾糧けんりやうをんど  
 綱つな一家いっか師徒しと戎じゆ礼拜らいはい畢おひらり又また一盤いっばん子こ小こ金銀きんぎんを多おほく載の是こゝハ十  
 志し乃のみ餓うなりとて出いづれば三藏さんざう擺た手て搖頭よくうて今いま毫こ分ぶんも受うかば陳老  
 種たぐひ々々小こ云いふ進まめれば行者ぎやうじや纒ひふ一塊いっくわんを収まり二老にらう乃のみ志しを謝いし遂つい小  
 別わかまき通つう天河てんたが小こり水みづを踏ふり師徒しと放心こころを進まむ程ほど小こ漸やく晚ゆふ  
 方かた小こ及およびぬまむ那な乾糧けんりやうをほひ又また氷こほりの上うへ小こ輝くわいく月星げつせい乃のみ光ひかり力ちから小  
 西にしを望のぞみ歩あ行り小こ只ただ望のぞみ忽たち然ぜんと水底みづそこより氷こほりを裂き音ね响ひびハ四衆しじゆう駭おど馬  
 丸まる慌あわり馬うまより落おちり原はら来より是こゝ那な妖まじ姪ひめ水底みづそこ小こ有あり窺うかがひ居ゐ馬蹄ばていの  
 响ひびをきき神しん通つうを弄あそひ一ひと河が小こ凍こを開ひらき行者ぎやうじや已まり氷こほりの開ひらきと見  
 半空はんくう小こ跳はり登のぼり妖まじ姪ひめハ早はやく三藏さんざうが馬うまを把とり水みづ中なか小こ引ひ入いれ三藏さんざうを

捉とり遙とほ小こ水府みづふ小こ走はり回まり厲はげ声こゑ小こ呼より々々如何いか皸あ妹い那な里り小こ在あり快  
 唐僧たうそうを生ひ捕とり勇ゆうまれば皸あ妹い跳はり出でり不ま取とり大王だいおうや我われ小  
 良ら謀ぼうを合あせ争まり逃にげり妖まじ姪ひめハ喜よろこみ日ひ減ひ賢けん妹い乃のみ良  
 策さく図ず小こ与よまり我われ已まり唐僧たうそうを把とり汝なんぢを拜まり兄にい妹いとせんと  
 約やくせり大だい丈ぢやう丈ぢやう乃のみ一ひと言ごんハ皸あ馬まも追おひとと也や蚤はやく案あん桌じやく成なり擡たいきり  
 刀たうを磨こりしよ這こ和尚おうそうを蒸むり心こゝろ成なり割わ皮かわを剥むり賢けん妹いと共とも小こ是こゝ受  
 用よう一ひと壽じゆを延の生びを長ながくせ皸あ婆はが曰い大王だいおう女に河が吃くやを休やすめ他たが徒  
 弟てい亦またかゝると尋たづねると願ねがひハ兩りゆう日にち成なり待まちり他た亦またか来きると来きると来きると  
 尺せき後ご容ようと食くふと練れんふ妖まじ姪ひめ精せい皸あ婆はが約やく小こ隨ずいひ唐僧たうそうを把とり  
 六ろく尺せき許こり石いし画が小こ収まり蓋がいを一ひと中ちゆう間かん小こ置おき却かえ説せつ沙さ僧そうハ戒  
 八はち湯たう浪らう小こ漂ひちが凍こを履はき浮うり出い行り者しやが半はん空くう乃のみ中ちゆう小こあ

乃とく同々ハ師又ハ何里小在ヤ。行者も更ふ知りなれど同轉  
 一舟小岸小上る人あり。早く陳清陳澄小告多れ。二老慌て  
 門外小接へ三個が衣裳の滋。云々云々。我ホが口成苦し  
 止めやせ。ハ這ゆなり。息や三蔵長老乃刀をえ玉ハざら。如何と尋  
 る。小三衆更ふ不知と答。二老涙を流し。色を放つ。大小悲し。女  
 可哀々々。船ゆき送り進せしとせ。堅執せ。従ひ玉守る。這小  
 及ぶ。多し。胸をおく。歎たれ。行者慰て曰。二老さの。耽憂す  
 勿き我師又必ど死と。有ま。決。那靈感王乃所為を  
 くれ。我ホカを。師又を救ひ出。他を殺さ。然ハ長。這里  
 乃患を除んと。結き。二老も満心歡喜。急た舟を調。進々小  
 ぞ。三人飽ま。吃。各兵器を。運。小水辺へと赴た。

三蔵有災沉水宅

觀音救難現真籃

却說三個ハ河辺小到。行者先曰。汝兩個高議。維。入水中。ハ  
 下。動止を。八戒。曰。我ホ兩個行。好手。出  
 乃。願。ハ師兄水中。下。窺ひ。行者曰。那山  
 裡の妖怪。ハ全。汝ホカを。水中。我  
 甚。不熟。溜。汝等ハ原来。慣水。因。汝等小水中  
 下。を要。所以。汝僧。曰。小弟水中。往。易。但  
 只水底。何。有。是。を。三人。往。但  
 往々。馱著。捉。者。先。妖怪の。巢穴。至。師又を。尋  
 定。如何。行者。賢弟。処。有。馱著。連  
 水底。下。行。百余里。那。子。行者。捉



行者早く一棍の毫毛を抜く。妻く假の姿となり置  
 本身二個の猪虱子となり。八戒が耳餘の裏小緊く貼着居  
 里。八戒案小違く沙僧小對ひ所詮他小莫管我汝と往く師又  
 を尋し。汝僧が曰。不好他水性を不知し。我小比く八乖巧成  
 り勝まじり。他きまじりなを。我汝と往くも益なき行  
 者八戒が耳餘の裡小有く忍く高呼り。悟浄老孫這小  
 あり。沙僧驚た八戒を喝く曰。汝猥る小師兄を捉へしとせ。左他形  
 を隠せり。今色の成皮の像を足と息の好よりあふ。八  
 戒慌く泥の裡小跪下く曰。哥々我過り願くも師又を救ひ岸  
 小より後陪礼せん。結本身を足せ。行者曰。汝小憂るも勿き我  
 汝小が身上小在。只速小水底小下き。兩人是を空く又進く行くと百

余里忽ち一坐の樓臺あり。臺上の押位を足れ水龜之第と云四個  
 の大字あり。汝僧曰。這壁廟是妖精の住所なり。我個二人門小  
 上まじり戦ひを索めん。行者曰。曰。悟浄那門の裏外水ありや。沙僧  
 が曰。更小水なり。行者心を安んじ。水かたに汝小左右小隠ま居よと  
 八戒が耳餘の裡を出身を揺一妻く長脚の鯢婆とかり。跳  
 那門の裏小入睜眼小。那妖怪上面小坐く。多小乃水族も両辺  
 小擺列班衣鯢婆傍小坐。唐僧を吃く。高議を行者より其  
 辺次看回。更小三藏小在。皆同伺ふ所。忽ち一個の大肚の  
 鯢婆きり。往小西の廊下小立定。行者頓て他が面前小跳至。同く  
 大王今衆と那唐僧を吃く。儀も急や。唐僧今那里小在や  
 大肚の鯢婆曰。曰。唐僧前小大王が降雪結氷の討小あり。捉

て後宮の石画あり。行者是れは、徑小尋く後宮小到り、  
 果然一個の石画あり。只は三藏石画裡小あり。嚶々として  
 行者耳を傾け、再度は、三藏悲愁の裡、一声の恨、  
 娘々の胎腹を出し、より、君子の災害、小遭、  
 近くハ黒河、小沈、  
 せん、今又氷解、小逢、  
 性命、已小黃泉、  
 小飯、せん、  
 今ハ徒弟、  
 小救、  
 小能、  
 小悲、  
 小遂、  
 小佛、  
 小拜、  
 小徑、  
 小求、  
 小故、  
 小園、  
 小飯、  
 小を、  
 小作、  
 小を、  
 小放、  
 小果、  
 小々、  
 小行、  
 小者、  
 小忍、  
 小住、  
 小曰、  
 小師、  
 小又、  
 小水、  
 小の、  
 小災、  
 小を、  
 小救、  
 小行、  
 小者、  
 小急、  
 小上、  
 小ハ、  
 小聖、  
 小慮、  
 小一、  
 小三、  
 小藏、  
 小這、  
 小言、  
 小を、  
 小白、  
 小徒、  
 小弟、  
 小早、  
 小我、  
 小を、  
 小救、  
 小行、  
 小者、  
 小急、  
 小同、  
 小頭、  
 小一、  
 小門、  
 小外、  
 小小、  
 小水、  
 小相、  
 小を、  
 小現、  
 小一、  
 小八、  
 小戒、  
 小沙、  
 小僧、  
 小を、  
 小呼、  
 小曰、  
 小那、  
 小妖、  
 小怪、  
 小師

又を騙了石画小捉、  
 汝兩人早、  
 闘戦、  
 老孫、  
 先、  
 水面、  
 出、  
 去ん、  
 汝、  
 他、  
 を、  
 捉、  
 去、  
 能、  
 ん、  
 倅、  
 敗、  
 他、  
 を、  
 引、  
 水、  
 中、  
 を、  
 以、  
 我、  
 他、  
 を、  
 捉、  
 分、  
 付、  
 躬、  
 避、  
 水、  
 の、  
 鉄、  
 を、  
 結、  
 河、  
 中、  
 を、  
 鑽、  
 出、  
 岸、  
 小、  
 停、  
 專、  
 其、  
 音、  
 信、  
 を、  
 待、  
 八、  
 戒、  
 汝、  
 僧、  
 門、  
 前、  
 小、  
 到、  
 聲、  
 屬、  
 曰、  
 濊、  
 怪、  
 早、  
 我、  
 師、  
 又、  
 を、  
 送、  
 門、  
 裡、  
 小、  
 妖、  
 急、  
 告、  
 妖、  
 怪、  
 曰、  
 是、  
 定、  
 那、  
 濊、  
 和、  
 尚、  
 早、  
 披、  
 掛、  
 手、  
 一、  
 根、  
 九、  
 瓣、  
 赤、  
 銅、  
 槌、  
 門、  
 を、  
 八、  
 丈、  
 字、  
 小、  
 因、  
 然、  
 出、  
 八、  
 戒、  
 小、  
 對、  
 眼、  
 曰、  
 汝、  
 濊、  
 和、  
 尚、  
 何、  
 小、  
 頂、  
 嘴、  
 尚、  
 不、  
 知、  
 小、  
 到、  
 八、  
 戒、  
 大、  
 小、  
 喝、  
 曰、  
 汝、  
 這、  
 步、  
 不、  
 死、  
 汝、  
 虛、  
 頭、  
 を、  
 弄、  
 假、  
 小、  
 靈、  
 感、  
 大、  
 王、  
 陳、  
 家、  
 小、  
 庄、  
 小、  
 西、  
 遊、  
 記、  
 三、  
 編、  
 卷、  
 八



行者の山

行者



行者拜観  
音需解師  
又難

観音大士

行者の山



毎年童男女を吃す。我ハ是陳清が家の二秤金なり。汝怒不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>  
 罵<sub>レ</sub>り。妖姪が曰。汝淫和尚前小来<sub>レ</sub>一秤金となり。冒名頂替<sub>レ</sub>  
 の罪を犯せり。れども我恕<sub>レ</sub>し。吃<sub>レ</sub>る小却て我手の甲を破<sub>レ</sub>り。今又  
 来<sub>レ</sub>り。門を強<sub>レ</sub>す。生小飽<sub>レ</sub>ず。敢<sub>レ</sub>て死を要<sub>レ</sub>る。八戒奮然<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>色  
 を起<sub>レ</sub>し。汝風雪を弄<sub>レ</sub>く。我師又を捉<sub>レ</sub>し。速小送<sub>レ</sub>り。同<sub>レ</sub>む。性命を饒<sub>レ</sub>  
 さ<sub>レ</sub>ん。然<sub>レ</sub>とも。眼前小命<sub>レ</sub>断<sub>レ</sub>ん。罵<sub>レ</sub>り。妖姪是を穿<sub>レ</sub>く。大<sub>レ</sub>怒<sub>レ</sub>り。  
 那銅槌を揮<sub>レ</sub>り。擊<sub>レ</sub>く。鬼<sub>レ</sub>れむ。八戒も鉈を上<sub>レ</sub>一往<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>し。須臾<sub>レ</sub>闕<sub>レ</sub>  
 汝僧妖姪の瘥<sub>レ</sub>る。瓜<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>。又宝杖を制<sub>レ</sub>す。兩方より披<sub>レ</sub>く。三個水  
 底<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>く。闕<sub>レ</sub>す。二時をり。更<sub>レ</sub>勝敗を不分<sub>レ</sub>。八戒佯<sub>レ</sub>く不能<sub>レ</sub>贏<sub>レ</sub>他  
 と云<sub>レ</sub>く。汝僧小恥<sub>レ</sub>と。丟<sub>レ</sub>個眼色<sub>レ</sub>。兩個一各<sub>レ</sub>小兵器を拖<sub>レ</sub>り。回頭<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>  
 那妖姪遁<sub>レ</sub>と。追<sub>レ</sub>る。此<sub>レ</sub>因縁行者東岸<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>く。眼不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>精<sub>レ</sub>。

水面<sub>レ</sub>残<sub>レ</sub>着<sub>レ</sub>居<sub>レ</sub>る。只<sub>レ</sub>着<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>辺<sub>レ</sub>の波浪翻騰<sub>レ</sub>。喊<sub>レ</sub>る。声<sub>レ</sub>天<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>。號<sub>レ</sub>  
 間<sub>レ</sub>もあ<sub>レ</sub>ず。八戒汝僧<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>圖<sub>レ</sub>小敵<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>引<sub>レ</sub>寄<sub>レ</sub>。跳<sub>レ</sub>く。岸<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>妖姪を  
 麾<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>り。来<sub>レ</sub>り。と欺<sub>レ</sub>く。中<sub>レ</sub>で。妖姪大<sub>レ</sub>小憤<sub>レ</sub>り。水面<sub>レ</sub>小跳<sub>レ</sub>り。行者  
 大<sub>レ</sub>喝<sub>レ</sub>一声<sub>レ</sub>。曰。汝淫姪我師又を困<sub>レ</sub>し。ね速<sub>レ</sub>小這<sub>レ</sub>一棍<sub>レ</sub>を吃<sub>レ</sub>し  
 鉄棒<sub>レ</sub>を論<sub>レ</sub>し。と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>く。れ。妖精<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>銅槌<sub>レ</sub>をの<sub>レ</sub>つ。急<sub>レ</sub>架<sub>レ</sub>つ  
 戦<sub>レ</sub>ひ。ま<sub>レ</sub>ご三合<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>り。小那妖<sub>レ</sub>敵<sub>レ</sub>し。と<sub>レ</sub>回頭<sub>レ</sub>く。水<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>小敗<sub>レ</sub>退<sub>レ</sub>き  
 々。行者今<sub>レ</sub>六途<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>り。高岸<sub>レ</sub>小回<sub>レ</sub>轉<sub>レ</sub>。八戒汝僧<sub>レ</sub>小曰<sub>レ</sub>。兄弟<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>寺  
 苦<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>。ふ<sub>レ</sub>され。妖姪早<sub>レ</sub>く逃<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>り。捉<sub>レ</sub>る。能<sub>レ</sub>はず。今<sub>レ</sub>一度<sub>レ</sub>往<sub>レ</sub>く。戦<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>索  
 他<sub>レ</sub>を引<sub>レ</sub>く。出<sub>レ</sub>き。れ。我決<sub>レ</sub>し。他<sub>レ</sub>を捉<sub>レ</sub>し。兩個<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>小順<sub>レ</sub>ひ。再<sub>レ</sub>ひ水<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>小  
 赴<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>り。却<sub>レ</sub>鏡<sub>レ</sub>那妖精<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>行者<sub>レ</sub>小敗<sub>レ</sub>績<sub>レ</sub>。回<sub>レ</sub>飯<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>れ。衆<sub>レ</sub>妖<sub>レ</sub>宮<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>小接<sub>レ</sub>  
 到中<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>婆<sub>レ</sub>近<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>前<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>。大王<sub>レ</sub>那<sub>レ</sub>兩<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>和尚<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>趕<sub>レ</sub>り。那<sub>レ</sub>方

小到里之妖女各曰我那和尚亦我赶去岸小到里一忽ち  
又一個の和尚有之一條の鉄棒を論しつゝあつゝ。我他と戦ひ銅  
槌を以て架住ふ他が棒の筋重量より。いふも二合をさす  
敗回まり。鯁婆大の驚た。大王那和尚は何事の相貌なるを  
紀にさう。妖怪曰我能怒は。毛臉雷公のつゝ火眼金睛の和  
尚なりと結る成す。小妖の裡より寒禁より進み出ると曰大王幸  
ふし。性命成全うし。再び戦ひむかふ生もつゝ能く。小  
の當年東洋大海小有る老竜王の現れ成す。五百年前大い  
天宮を闹せ。各天大聖といふ者。今佛教の皈依し。唐僧を保て西  
天小到里経を要し。手名を改め孫悟空といふ他神通变化側な  
く向ふ処方を降し。妖を捉し。他和尚就ち孫行者なりんとてを安

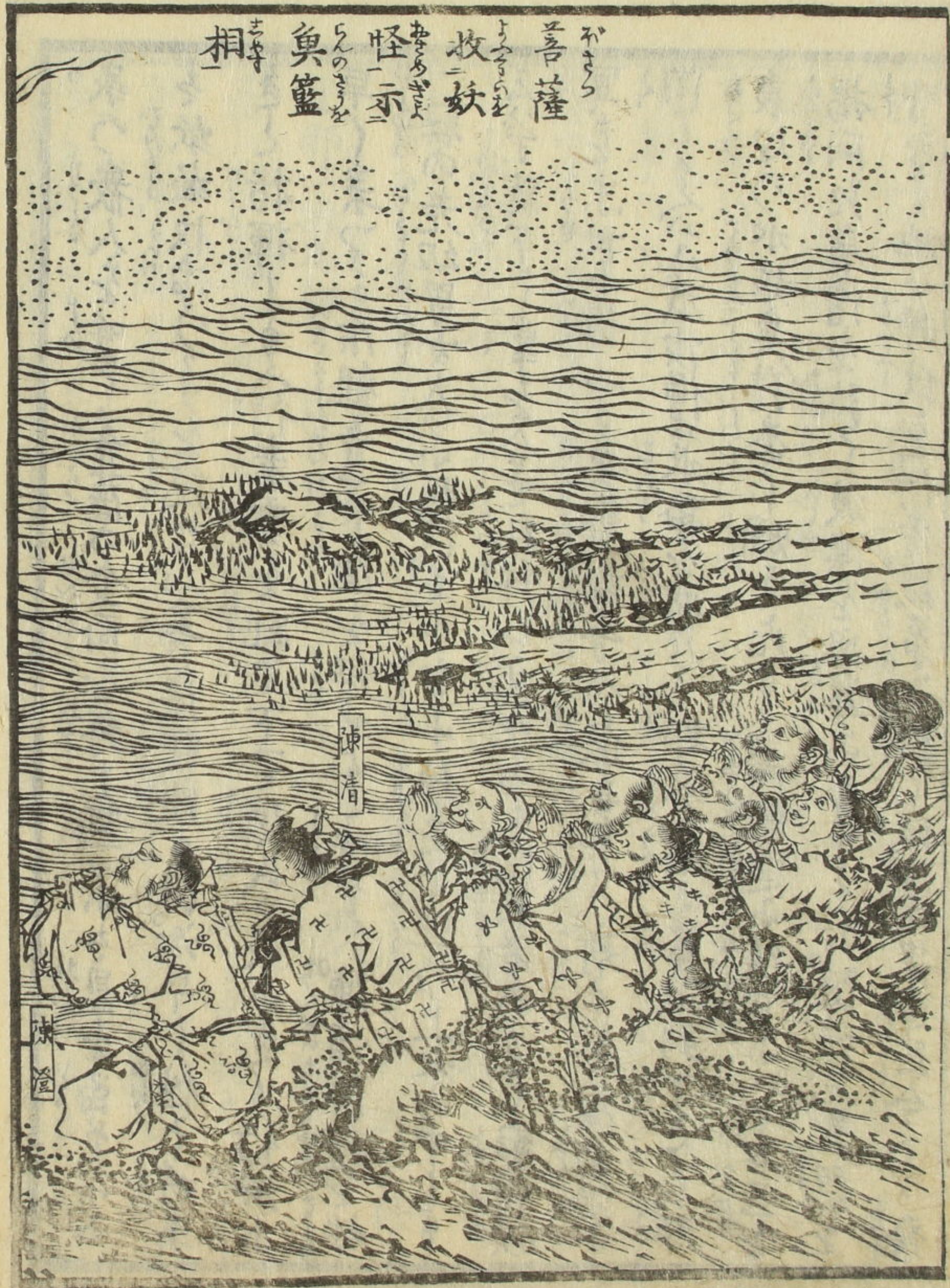
那妖王戦々競々色然失ふ処小。忽ち門裏乃小姪まきり。前  
乃二和尚又門外小きり。戦ひを索と報る。妖群妖小令  
汝亦緊く門を鎖し。如何喧嚷し。門を開くる。分付く。色  
を小妖一各小石頭泥塊を把り。門を塞ぎ。斯ともあつゝ八戒  
汝僧妖怪出。再び勝負を決せよと叫ぶ。敢て一人も出。戦  
的を。八戒怒り。鉈を掣り。門の扉を搥破。裏を。小  
石塊を高く疊ぎ。裡小入る。使を。汝僧曰。妖怪懼怖。不出  
會再び哥々と針較せん。兩個とどく。東岸小回り行者小對  
り斯と告げ。行者中。如此く。小無方可治汝。兩個ハ此小待我。普  
陀巖小つゝ菩薩小針策を向まん。と急小。筋斗雲小駕し。  
と羊肉をす。南海小至り。雲を下り。普陀巖小到り。衆神

迎へ曰菩薩今早洞を出ぬ。独身竹林の内ふく観現し  
 のひ。大聖今日ききし。我亦小分付。茲小有窺。行  
 めの。汝翠巖の前小坐し。片河行ひ。菩薩自ら来り。下。行  
 者其言小随ひ。坐し。待小。那善賤童子出来。行者乃令進で  
 礼を絶し。孫大聖前小。蒙盛意。幸小菩薩小奉仕。左右を不  
 離甚。善慈を蒙。行者紅孩児を。笑。曰。汝前小魔  
 行小心を迷。今正果小飯。老孫が好人。知。結  
 ふ。ろ。ろ。の。行者久く菩薩の来。玉。小。心焦燥。諸神乃制と  
 る。その。竹林。入り。菩薩。独柴竹の林小坐し。腰  
 纓絡を。戴。蓋袍を。掛。玉手小。鋼刀を。竹皮を削  
 居。行者近。進。志心朝礼。曰。今師又通天河。妖怪乃

為小捉られ。性命を。願。ハ慈を。垂。妙ひ。菩薩の  
 宜く。汝外面小。退。出。我往を。待。行者領掌。竹林を。去り  
 出。諸神小。曰。菩薩今日。蓮臺小。坐。守。妝飾も。穿。玉。竹  
 林小。竹皮を。削。甚。小。や。緒天曰。我亦曾。其故を。不知  
 只我亦。此所小。大聖を。接候。必。深。道理。行  
 者待。不。汝。只。看。菩薩手。一。個の竹。籃児を。提。出  
 き。宣。如何。行者我。汝。俱。行。唐僧を。救。ひ。き。行  
 者跪下。曰。弟子敢。催促。菩薩。衣を。穿。坐。小。登。大  
 め。菩薩。宣。只。此。修行。祥雲を。放。空。小。上。大  
 聖。勅。斗雲小。駕。項刻の。間。通。天河。小。至。戒。汝。僧。觀。音  
 を。礼。拜。を。れ。菩薩。即。ち。絲。絲。を。り。籃。児。を。結。付。絲。を

提ひて雲端うんげん小立こたて出河中小くわちゅう抱入かかひ口くち念頌ねんじゆを七遍しちへんとららくく藍見らんぎを引  
 揚あげげるる者もの那藍見ならんぎ小灼こやく々々一尾いつびの金魚きんぎよ有あるる斬眼せんがん動鱗どうりんと  
 菩薩行者ぼさつこうじやうを呼よぶぶ快こゝろくく水中すいじゆう小下こくだつつ汝な師し又またを救すくへへ分付わけああへ  
 行者こうじやう曰いまま曾そうう妖姪ようしやくを拿とりりてて如何いかとと師し又またを救すくひひてて菩薩ぼさつ  
 宜よろししくく這藍見ぜんらんぎの裡うちをを八は即すなはちち妖姪ようしやくなりなり行者こうじやう其故そのゆゑををふふすす拜まが  
 くと又また問と這ぜん魚ぎよ何なにの妖姪ようしやく小こいいやや菩薩ぼさつ曰いははくく這我ぜんが蓮池れんぢ乃の裡うち小こ難がたひひを  
 一いつ巨こゝろなるる金魚きんぎよなるるがが日ひでで小頭こづかをを鉢はちにに經きやうをを皮かわ頗たるる神通じんづうをを修しゆ成じやう  
 了りやう那な一いつ柄へい九く瓣はんのの銅どう槌づい乃のちち是こゝろ一いつ根こん未み用もち蓮れん花か他たがが運うん煉れん小こ依よるる兵へい  
 器きととなるる或ある日ひ海潮うしほ泛か漲う池ぢをを出でるる這河ぜんが小こ来きりり成じやう積せきくく妖王ようおう  
 乃の汝な師し又またを害がいせんんとと故ゆゑ小梳くし汝なももせせ守まもりり個ひと竹たけ藍見らんぎをを織おりて  
 他たをを捕とへへるる行者こうじやう少すこくく感歎くわんたん一いつ已い小こ如ごとくく乃の片かた因よ待まちるる我われ小陳ちん

家いへのの衆人しゆうじんをを呼よぶぶ菩薩ぼさつのの金面きんめんをを拜まがせせ二ふたつつ小こ息いきをを笛ふえにに二ふたつつ小  
 とと妖姪ようしやく収おさめめ治ちららるるをを鏡かがみにに映うつりり菩薩ぼさつ點てん頭づかのの小こいい汝な早はやくく往むかひひ來き  
 きてて指揮し揮ひららるる行者こうじやう雲うんをを跳はりり下くだりり陳ちん氏しのの家いへ小こ来きりり行い汝な小  
 早はやくく來きりり活い觀くわん音おん菩薩ぼさつをを拜まがせせよよとと呼よぶぶ陳ちん清せい陳ちん澄じやうとと始は  
 一いつ莊じやうのの老らう幼ぎゆう男なん女にょ大だいのの悦えつひひ足あしをを空そら小こ弛し走そうりり泥どろ乃の上うへ水みづの中なかにに  
 云いふふ守まもりり下くだりり掌てのひらをを合あははせせ礼らい拜はいをを其その中なかにに小こ圖ず画え者ものありり影かげ神かみ摸も  
 寫しやうをを未み世よ小傳でん乃の小傳でん乃の像ざう是こゝろなりり斯かくくく菩薩ぼさつ南なん海かい小  
 回くわいりり乃の八は戒かい波は僧そう乃の水路すいじゆうをを用もちひひ乃の水みづ龜かめ之の第だい小こ到たうりり乃の乃の乃の乃の  
 裏うら邊へ乃の水みづ姓せい與よ精しやう悉しつくく爛らん死しせせりり兩らう個こ運うん小こ後ご宮みや小こ乃の石いし画えをを  
 揭あけけ開ひらくく唐たう僧そうをを秋あき乃の波なみ津づをを出で岸きし小こ登のぼりり乃の陳ちん清せい凡ぼん弟てい頭づかをを  
 叩たたきき地ち小こ拜はい伏ふくをを行い者もの昆こん弟てい小對たいりり曰いははくく汝な亦また乃の這ぜん里り今いま乃の祭まつり



西遊記卷八

十一

を不用し。那大王の除根を再び災かゝる。汝亦其恩を歩む。  
 快く一隻の船を索す。我亦を送る。河を過よ。陳清兄弟大悦。  
 ひく曰。願くは新小船を造り送りません。夜客是故申す。我ハ施  
 を買ん。我ハ嵩高漿を弁せん。或ハ水手を雇ん。勇之洞所り  
 忽聽河中。小者有之。大聖船を造りせし。人家の財物を費し。ま  
 り。我唐僧師徒を送る。河を過し。之と呼衆人。是を定む。心驚死  
 乃。小只着水中。より一個の妖精。出。是粉蓋頼頭。乃。龜なり  
 行者。恥とん。鉄棍を揮上。曰。我汝が如死。藤子苗を禁し。むと  
 快く守り。近着。か。二棍の下。小殺さん。老龜行者が面を。曰  
 我汝が恩澤を感。情愿。唐僧師弟。黙。河を渡さん。と  
 小。怎麽却。我を歩ん。行者。約を。曰。我。汝。對

甚る思恵あるや。老龜洞を流。曰。大聖。知。此。這水底  
 小。ある所。乃。水龜。之。第。て。原。我的。が。任。宅。あり。歴。代。祖。上。り。傳。流  
 小。那。妖。怪。九。年。前。の。海。嘯。波。翻。り。因。潮。頭。を。起。す。這。所。小。ま。り  
 兇。頑。を。逞。く。我。と。争。闘。し。小。我。運。拙。し。他。小。傷。ら。れ。我。妻。亦。り。兇  
 女。眷。族。悉。く。闕。ひ。敗。算。完。残。ら。ず。他。小。奪。り。ぬ。然。小。今。大。聖。這。日  
 き。り。菩。薩。を。請。り。妖。精。を。収。め。り。小。より。第。宅。を。我。小。回。り  
 我。今。舊。舎。小。任。す。を。ほ。ろ。大。息。丘。山。の。一。且。我。亦。が。歡。喜。す。小。あ。り  
 む。這。莊。乃。人。々。の。年。々。乃。祭。賽。小。姓。を。合。手。す。を。免。ま。す。小。美。小  
 一。舉。兩。得。乃。思。恵。あり。と。説。く。乃。行。者。暗。小。悦。ひ。鉄。棒。を。収。め。汝。今  
 乃。所。真。情。を。朝。天。に。賭。兇。を。と。て。老。龜。是。を。少。く。紅。口。を。張。天  
 小。朝。に。發。誓。す。曰。我。唐。僧。を。送。り。て。此。通。天。河。を。過。む。ん。身。化。す

血水とたらしと。茲ふ於て行者疑念を暗し。汝快く上未々々と云  
々。老龜身を二度縦一河岸小爬上る。衆人迫着て是をみる小  
團圓。四丈より右て一個の大白蓋の老龜なり。行者三藏小むくひ  
師又他が甲小棄て這河を渡りて。三藏が白徒弟小辱た水の上  
を行き尚遭迎とせり。況や這龜背小棄てて。恐くは穩  
使たり。老龜更て曰。長老心を放し。妖怪が偽水小比。て我背  
上。這小穩を。行者が曰。師又平素小凡衆生の會説少。經路  
を。つて。我。滅。り。老。龜。已。小。天。小。誓。何。ぞ。經。を。中。分。れ。八。戒。沙。僧  
快く馬を引き。つて。師又と俱。小。他。が。背。上。へ。棄。三。藏。漸。く。心。放。し。  
々。陳。家。の。老。幼。男。女。も。厚。く。謝。し。拜。送。せ。り。行者と馬  
を曳。白。龜。が。蓋。の。上。小。棄。唐。僧。を。請。て。馬。の。頭。頂。の。左。小。站。し。り

沙僧ハ右小站八戒ハ馬の後小站。行者馬の前小站。老龜水中  
小這入足を踏。流水を踏。平地を行。東岸の衆人と是  
れ。香を焚。頭。南无阿弥陀佛と念。礼。望。小  
も。形。影。見。え。よ。な。り。行。各。家。小。回。り。去。れ。斯。て。三。藏。師。弟。ハ。白  
龜小駕着て行。早。疾。風。の。て。八。百。里。の。急。流。を。繞。一。日。小  
行。終。小。通。天。河。の。西。岸。小。著。ぬ。三。藏。小。岸。小。登。り。謝。し。曰。老  
龜。汝。を。累。ま。し。甚。し。お。れ。は。も。贈。る。死。物。也。我。経。殘。り。回  
を。中。心。を。辱。く。思。を。謝。せ。老。龜。曰。師。又。賜。謝。を。受。る。心  
か。小。的。け。さ。る。西。天。の。佛。祖。ハ。滅。る。も。な。く。生。る。も。な。く。中。に  
能。過。去。未。来。の。事。を。知。り。と。も。我。這。河。小。有。と。終。行。し。と。も。  
一。千。三。百。余。年。然。と。延。壽。身。也。經。久。人。の。語。を。會。説。し。も。只



沙僧

沙僧



孫悟空誠師

画園

行者

三藏

八戒

西遊記

二十



恨らるる畜生道の本売を脱ぐ。萬望長老西天小到。我より這畜生道を解脱。一個の人身と有り。佛祖小回。願ひ多。三藏點頭。我汝が為。水中小。沈去。三藏師徒。是より大地を一直。西を望。急た。

情乱性從因愛慾

神昏心動遇魔頭

給統三藏師徒四個。西小從。行々。又嚴冬。時節。小。路窄。崖高。人馬行。藏韁繩を任。後弟を呼。日汝ホ前面。山高。虎狼の害。行者。師。我。意を合。師を保護。何。虎狼を。三藏。小。

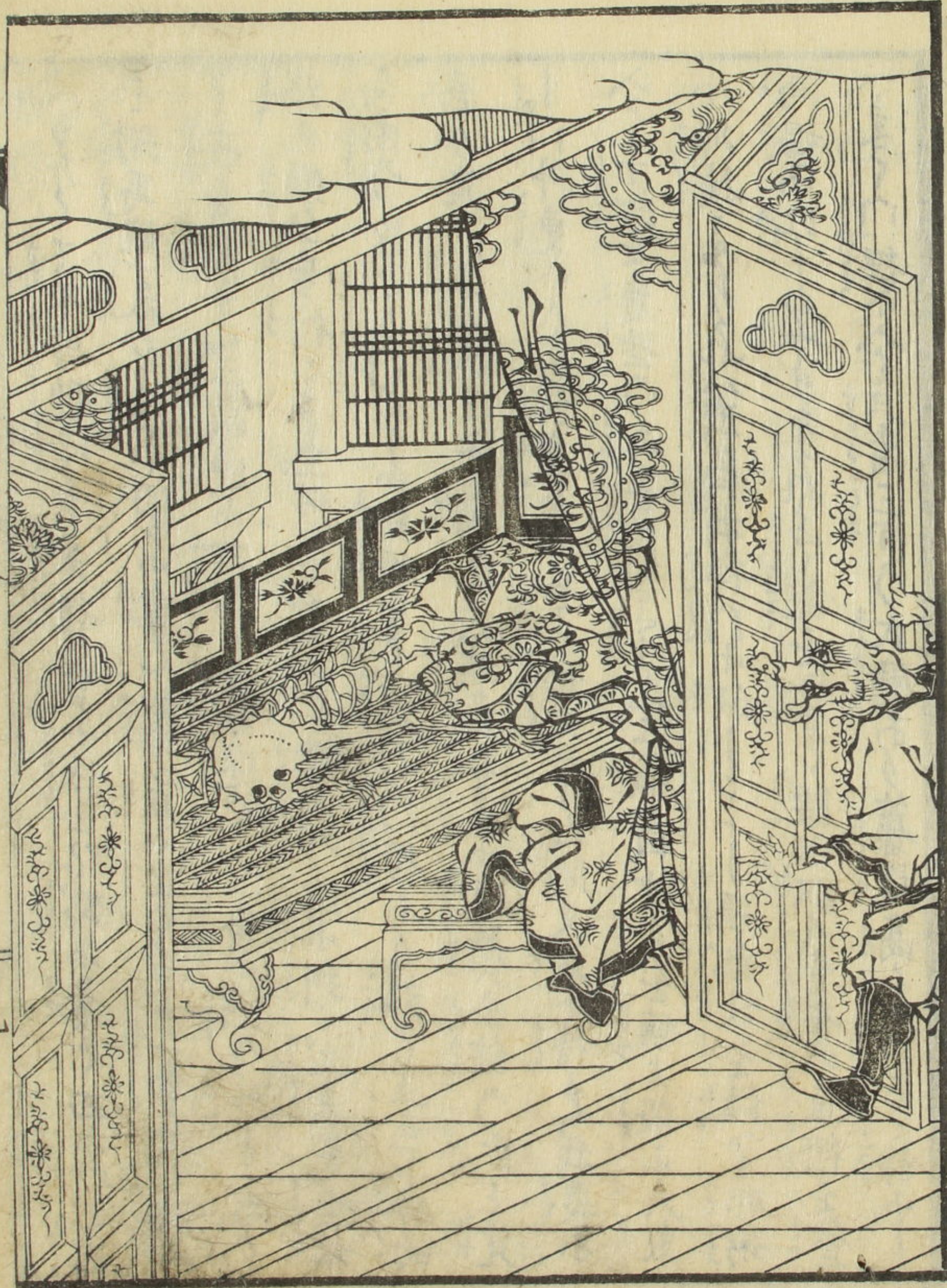
教心。雪を冒。戰漸。進。行巔。峯峻。嶺を過。遠。尺中。只。看山。乃。四。中。小。樓。臺。高。徒。房。舍。清。幽。有。三藏。日。新。是。人。家。寺。院。有。成。屋。汝。道。を。急。此。乃。奔。飯。を。籍。創。を。杖。再。び。走。れ。行。者。中。眩。と。暗。者。小。那。壁。廂。兇。雲。隱。々。惡。氣。絲。々。行。者。頭。を。同。三。藏。小。向。師。又。根。小。往。那。邊。是。好。所。小。有。三。藏。日。樓。臺。房。舍。有。を。見。好。所。小。有。何。故。行。者。日。西。方。路。上。多。妖。怪。有。能。宅。を。點。化。せ。ん。禍。有。老。孫。那。壁。廂。の。氣。色。を。見。小。恐。小。妖。乃。巢。穴。有。三。藏。日。已。小。斯。乃。我。小。飢。今。是。を。奈。何。行。者。日。師。又。飢。馬。を。下。此。處。小。坐。老。孫。他。小。去。脊。を。籍。回。を。待。三。藏。

是あ小こ隨ずひ馬まを下くだまさも汝なんぢ僧そうの包かぶを解とき鉄てつ鉢ぱつを取とり出だし一ひと行者ぎやく  
 小こ遊ゆうととも行者ぎやく是こを錯さく取とり三さん藏ざう小こ向むかひ曰い師し又また這こゝろ所ところを去さり去さり  
 ハ汝なんぢ凶こ多たく凶こ多たく人ひと断たり身みを動うるるも我われ假かり小こ安あん身しんの法ほふを布ふん  
 と金きん箍く棒ぼうをとりと平へい地ち小こ週しゅう圍ゐと一ひと筋すぢの圍まわ子こを画えき展ひらけ  
 中ちゆう回かい小こ坐ざせしめ八はつ戒かい汝なんぢ僧そうを左ひだり右みぎ小こ侍せ世せ師し徒た小こ對たいひ我われ画えき  
 圓まる相さうの中ちゆうを銅どう牆きやう鉄てつ壁へき小こ比ひしやう虎こ狼らうと鬼おにたりと敢あて近ちか  
 看みるる能よくく也なり園えん外がい小こ走そうり出でるる河かを忽たちち災さい害がいあらむと緘しんけ  
 坐ま下くだるる行者ぎやくハ雲うん頭とう小こ上かみま  
 人家にやうを尋たづねねひ身みを結むすんと南なん小こ向むかひ秘ひ行ぎやく小こ只ただ看みるる右みぎ樹じゆ天てん小こ參さんり  
 一ひと起おのこ在ざい舎しゃ有あるる急いそ死し雲うんを樓たか下くだるる見みるる此こゝろの扉かどを開ひらき一ひと個こゝろ  
 老らう者しやう黎らの杖しやうを抱かかり出できし天てんを仰あげし獨ひとり言いひ曰い西せい小この風かぜ

起おきし明日あした必かなず暗くら天あまなりなりと云いふる後のち更さらに一ひと頭とうの物もの見み来き  
 行者ぎやくを望のぞみ汪わう々と乱らん吠びぬ老らう者しやう頭とうを回まわりし行者ぎやくハ鉢ぱつ盂ぶと  
 捧たげし凡なん人ひとを尋たづねねば行者ぎやく答こたへ曰い我われハ是こゝろ東とう土ど大だい唐たうの者もの  
 乃すなはち欽きん差さを奉ほう西せい天てん小こ往かうへ佛ぶつを拜たまへ經きやうを求もとめし然しかも我われ師し又また  
 今いま飢う小こ臨りんり故ゆゑ小こ特とく尊そん府ふ小こ募ぼ化け化けなりと語かたれし  
 老らう者しやうゆゝ曰い長ちやう光かう是こゝろ錯さくてし西せい天てん小こ往かうへ這こゝろ真ま北ほく小こ大だい路ろあり我われ此こゝろ  
 里り小こきこれ八はち千せん里りの遠とほり早はやく回まわり大だい路ろを行いなしと教し也なり行者ぎやく  
 笑わらひ曰い我われ師し又また已こゝろ北ほく小こ大だい路ろあり我われ身みを結むすり回まわり待まちり那な  
 老らう者しやう惘わう一ひと面めん色しき也なり曰い這こゝろ和わ尚かう夢むく乱らん談だんをしるる勿なるる汝なんぢが師し又また大  
 路ろ小こ有あるる餒う小こ汝なんぢが這こゝろ千せん里りの遠とほり小こ募ぼ化け化けなりと語かたれし行者ぎやく又また笑わらひ曰い  
 六む七しち日にちを消しょうえしるる然しかも八はち師し又また何なにを餒う疲ぱさしるるや行者ぎやく又また笑わらひ曰い

凡人六七日を過すとて、我共一盞の茶の冷ざる間、よく回ると  
 をたて今夜を結と師又乃午後供へんとす云々、老者大に  
 怕と、這和尚必と鬼なりと、裏小向ひ逃へんとす、行者杜住と  
 曰、絶至怕と、身を休と、些の食を恵め、老者曰、さりとて、不  
 方便なり、我家已六七日、口少く、纔小三杯、酒を酔と、下鍋と、魚イサを不  
 煮熱、別処小行と、繕と、行者曰、古縁ゆ、三家小走ると、一家小坐と  
 ると、不如と、我、這小在と、飯の熟と、成行と、老者行者、衣小纏たづなに放  
 さるるを、怒と、黎杖をとり、丁と、あつと、七八下、行者、自若と、と、更小  
 怕と、手笑と、曰、老官、見杖の数を、紀おぼはれ、一杖、撃むと、三杯、酒を繕と  
 二杖、撃むと、三杯、酒を繕と、老者、是言を、受と、急小杖を、丟と、跑進  
 去、門を圍と、と、有鬼、有鬼と、嘍々、れ、一家の男女、大に、慌と、前後の

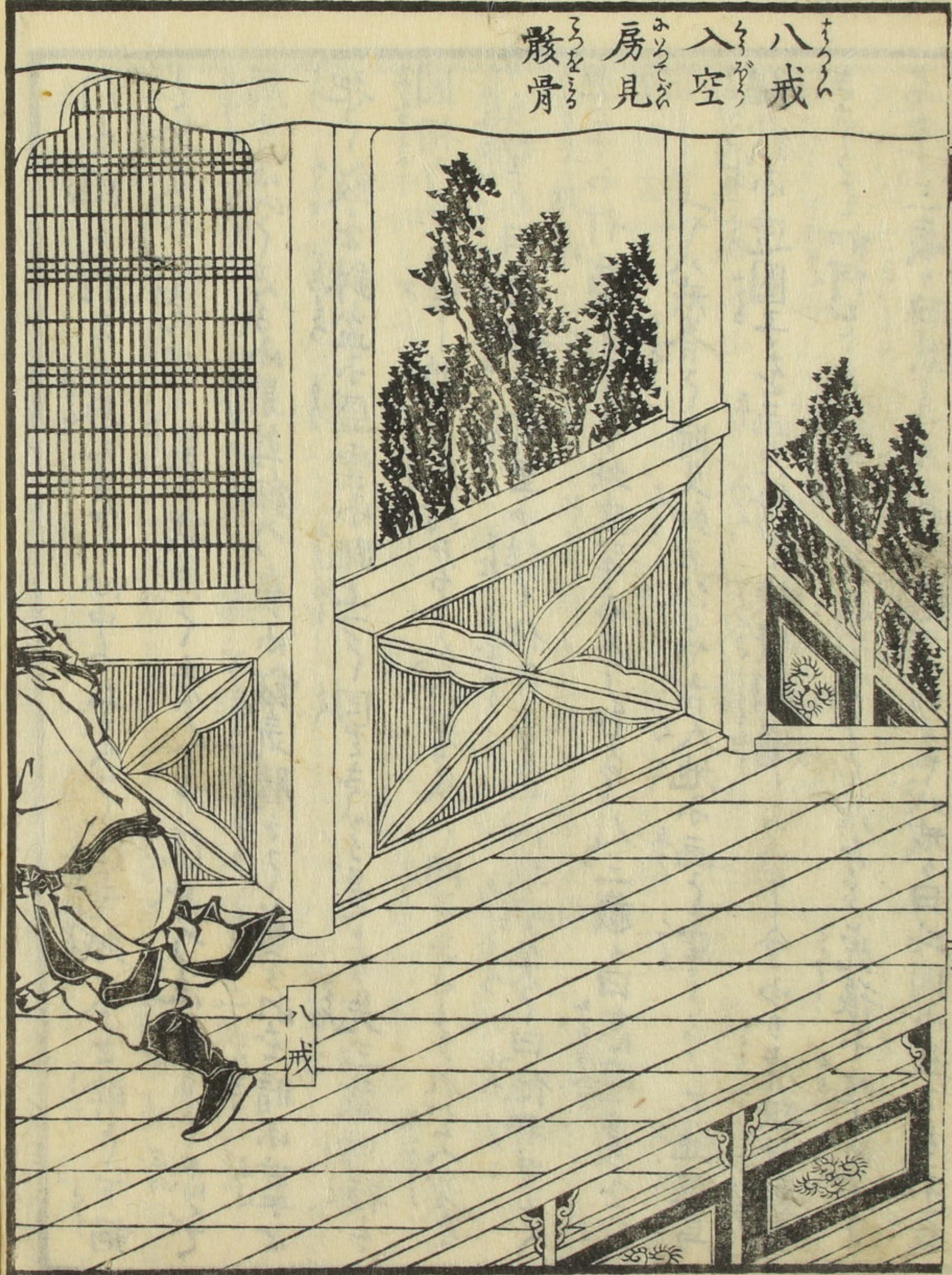
門を圍と、行者、此跡を、見と、心中、小おと、り、這老賊、采を、酔と、下鍋  
 と、之り、不知、是虚と、実と、我往と、看と、と、隱身ひんしんの法を、り、と、忍しのびて  
 厨中、小へ、と、刀、小果、然、鍋の裏、小飯、氣騰と、と、煮、と、れ、を、暗小蓋を  
 把と、飯を、鉢、盆、小盛、雲、小跳、上と、と、回、と、き、と、是、と、り、先、三藏、師、徒、と  
 圓、相、の、中、小坐、と、と、多、回、を、り、と、行者、久、と、回、と、き、と、と、れ、バ、欠、身、を  
 望と、と、曰、這、猴子、那、里、小往、と、と、化、身、と、と、や、八、戒、嘲、笑、と、曰、他、那、里、と、  
 要、子、小行、我、亦、を、と、と、此、坐、穿、小在、と、と、三、藏、と、曰、怎、麼、是、を、坐  
 穿、と、と、や、八、戒、答、と、師、又、知、と、と、や、古、人、地、小画、と、穿、と、と、他、匹、馬  
 媪、戲、小、這、園、子、を、画、と、と、鐵、壁、銅、牆、と、と、り、今、中、の、虎、狼、妖、獸、の  
 き、と、と、を、如、何、と、と、と、と、攬、と、と、只、我、亦、を、と、と、居、と、と、虎、狼、小、吃、と、と、と、  
 ぬ、の、と、三、藏、と、曰、然、と、と、女、息、の、處、置、あり、と、八、戒、と、曰、此、間、小在、と、と、不、藏



西遊記二巻ノ

十八

八



八戒  
入空  
房見  
骸骨

西遊記二巻ノ

十八

八戒

風もたつて不可避冷り老猪と言小依む路小着く西小行し然  
 を粥馬媪を結く回る小會ん如今茲小坐さる一會せむ脚冷  
 疾を幾せん三藏遂小歎子言小送ハされ一昏小園の外り出く  
 路小頃ひ歩行さる小一河をさすく樓閣の所小到る元来是坐北  
 向南の家なり門外も粉牆ゆく一座の門樓あり都く五色小妝的  
 まり其門半掩り手小開りハ戒白おのふ這所ハ公侯の宅と覺  
 門外更小人をたハ裏面小在く烘火をく師又茲小待り我裏小  
 へ子細を看些の存を結きさる三藏白汝のを慎上撥小人家  
 小冲撞ふなれハ戒白我禪門小飯くくより預礼敷を做り那粥  
 馬媪小比一ゆさりなれとて鉞を拿く腰小扱め青布の直經を整  
 へまき門裡小へむ只看三間の大廳あり簾棹高くけり静り

全く人の居るけをひたれ扉門を閉りく進く行小又一個の  
 堂あり堂のほ小一坐の大樓あり樓上の楹格半用九一頂の黄綾の  
 帳幔をけり歎子独言小曰く侍好舎小人のたれとて怪く是定  
 めく寒を怕き内房小潜むるくと内外を憚らす歩りて樓  
 上へ上り幔帳を掀開るる小裏小象牙の牀あり牀の上小一堆の骸  
 骨あり恰も巴斗の大きふく腿骨の長さ四五尺りや有るくん由  
 ハ戒俄小哀を催し涙を落し那骷髏小向ひく曰不知汝ハ是那の  
 代那の朝小仕さる元師の體ぞかり不是國忠の為小身命と抛ち  
 王道を興し霸業を定り人なるん小英雄豪傑の魂ハ今何処  
 小飯さる色と已独合点く只管小哀がり阿弥陀佛くと念つ小  
 帳幔の透間より燈の光りこれ扱ハ侍奉香花乃人有るん

時安<sup>まろ</sup>く<sup>あ</sup>る<sup>ら</sup>ふ<sup>ら</sup>燈<sup>とう</sup>と<sup>と</sup>刀<sup>や</sup>え<sup>え</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>窗<sup>まど</sup>扇<sup>あふ</sup>より<sup>より</sup>透<sup>す</sup>月<sup>げつ</sup>影<sup>かげ</sup>なり<sup>なり</sup>其<sup>その</sup>壁<sup>かべ</sup>廂<sup>しやう</sup>の<sup>の</sup>一<sup>ひと</sup>張<sup>ぢやう</sup>  
 の<sup>の</sup>桌<sup>つえ</sup>子<sup>こ</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>桌<sup>つえ</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>上<sup>かみ</sup>小<sup>こ</sup>篋<sup>けつ</sup>件<sup>けん</sup>の<sup>の</sup>錦<sup>きん</sup>綉<sup>しやう</sup>綿<sup>めん</sup>衣<sup>い</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>這<sup>こ</sup>敷<sup>しき</sup>子<sup>こ</sup>  
 幼<sup>お</sup>小<sup>こ</sup>感<sup>あ</sup>慨<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>し<sup>し</sup>心<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>似<sup>に</sup>ど<sup>ど</sup>忽<sup>と</sup>ち<sup>ち</sup>一<sup>ひと</sup>點<sup>てん</sup>の<sup>の</sup>慾<sup>よく</sup>心<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>生<sup>な</sup>じ<sup>じ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>  
 天<sup>あま</sup>我<sup>が</sup>小<sup>こ</sup>寒<sup>さむ</sup>冷<sup>や</sup>を<sup>を</sup>凌<sup>しの</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>此<sup>こ</sup>綿<sup>めん</sup>衣<sup>い</sup>を<sup>を</sup>与<sup>あ</sup>へ<sup>へ</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>不<sup>あ</sup>管<sup>ふ</sup>好<sup>こう</sup>衣<sup>い</sup>  
 二<sup>ふた</sup>衣<sup>い</sup>三<sup>さん</sup>衣<sup>い</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>悦<sup>よろこ</sup>び<sup>び</sup>勇<sup>ゆう</sup>と<sup>と</sup>樓<sup>ろう</sup>を<sup>を</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>進<sup>すす</sup>み<sup>み</sup>小<sup>こ</sup>門<sup>かど</sup>外<sup>がは</sup>へ<sup>へ</sup>と<sup>と</sup>走<sup>は</sup>り<sup>り</sup>出<sup>で</sup>る<sup>る</sup>

繪本西遊記二編卷之八畢

Gajoran Kwannon  
and Fish Basket

Kwannon and Knife

